平成14年（2002年）5月1日

廃棄物学会ニュース

The Japan Society of Waste Management Experts

No.68

廃棄物学会

平成14年度廃棄物学会総会開催

廃棄物学会誌第13巻第1号にて告示のとおり、平成 14 年度廃棄物学会総会を下記により開催致します。会員各位の積極的なご参加をお願い致します。

1．開 催 日 時：平成14年5月23日(木)
午後3時45分より

2．開 催 場 所：大田文化の森　ホール
（東京都大田区）

総会は、学会の事業活動と運営について会員各位にご審議決定いただく最も重要な会議です。

今回は、平成13年度の事業報告と決算報告、及び平成 14 年度の事業計画(案)と予算(案)の定例議事のほか、会則の一部改正、並びに先の選挙結果(次頁参照)に従って、会則第13条の規定にもとづく第7期の役員(理事・監事)の選出をお願いいたします。

また、名誉会員の推薦についてもお願いしております。

なお、ご都合でどうしても参加できない正会員の方は**総会資料に綴じ込んである委任状の提出をお願いいたします。**

総会の成立要件として会則第25条の規定により、正会員現在数の４分の１の出席が必要とされておりますので、ご協力をお願いいたします。

総会に併せ、平成13年度廃棄物学会賞表彰式を行います。終了後には、懇親会を開催いたしますので、併せてご参加をお願い申し上げます。

案 内 図

○JR大森駅より徒歩15分
○JR大森駅西口から東急バス・池上方面行（蒲田駅、池上駅、洗足池行等）で大田文化の森下車1分
○東急池上線池上駅から東急バス・大森方面行（大森駅、大井町、品川駅行等）で大田文化の森下車1分

第13回廃棄物学会研究発表会（11月28日～11月30日：京都市）

発表論文の申込締切は７月１日（月）当日消印有効　です。

○開催要領、論文執筆要領、発表申込書は学会ニュース67号、または学会誌第13巻第2号に掲載されています。特に本年より応募資格が変更(非会員は登壇できません)されていますのでご注意ください。
○締切後の論文受付、提出後の論文の差し替えは行いませんので、ご注意下さい。
○「発表申込書」と論文原稿を１セットとし、オリジナルを１セット、コピー４セットを事務局論文受付係まで送付して下さい。原稿を持参されても受け付けいたしません。
○**発表申込書を学会ホームページ（http://www.jswme.gr.jp）からもダウンロードできます。**電子ファイルとしての申込はできませんが、MSWordファイルを用意していますので、ご利用下さい。

平成14年度研究シンポジウム開催のお知らせ

学会ニュース 67 号同封の開催要領及び学会誌第13巻第2号にてお知らせいたしましたとおり、平成14 年度研究シンポジウムを以下のとおり開催いたします。なお、詳細は学会ホームページにも掲載しております。

1．開催日時：
平成14年5月23日(木)～24日(金)

2．開催場所：
大田文化の森（東京都大田区）

3．参　加　費：正会員及び公益・賛助会員所属；3,000円
学生会員；1,000円
非会員；5,000円
(当日会場にて入会できます。)
※総会のみの出席は無料です。
※懇親会への参加には別途費用が必要になります。

4．参加申込方法
当日、会場(ホール棟1F ホワイエ)にて受付いたします。備え付けの参加申込書に必要事項を記入し、該当する参加費を添えてお申込み下さい。

【タイムスケジュール】

	時 間	第1会場	時 間	第2会場
23日(木)	12:30～13:00	受付		
	13:00～15:30	(1)食品リサイクル法と循環型社会の構築	13:00～15:30	(2)環境報告書の開示内容分析とその役割、及び今後の環境経営
	15:45～17:15	総会・表彰式		
			17:30～19:30	懇親会
24日(金)	9:30～12:00	(3)循環型社会形成に向けた廃棄物計画のありかた	9:30～12:00	(4)議論しましょう『我が国の拡大生産者責任について』廃家電リサイクル法を例にとって
	13:00～15:30	(5)一般廃棄物処理の有料化の是非	12:45～14:45	(6)新しいごみ処理施設の運転実績と今後の展開・課題
			15:00～17:00	(7)最終処分場新技術の開発・研究の動向

■□■ 選挙管理委員会 □■□■□■□■□■□■□■□■□■□■□■□■□■□■□■□■□■□■

廃棄物学会第７期役員選挙結果報告

廃棄物学会第７期役員選挙の結果を下記のとおり報告いたします。今回の選挙は有権者数3,169名、投票総数1,404票、投票率は44.3%でした。ご協力ありがとうございました。

平成14年5月1日　選挙管理委員会

１．理　事（定数16名）　【有効投票数：1,381票】

氏　名	所　属	得票数
高月　紘	京都大学	1,075
田中　勝	岡山大学	1,066
酒井　伸一	独立行政法人国立環境研究所	1,043
田中　信壽	北海道大学	951
小林　康彦	財団法人日本環境衛生センター	893
松藤　康司	福岡大学	873
古市　徹	北海道大学	856
占部　武生	東京都	794
澤地　實	大阪市	746
井手　義弘	川崎重工業株式会社	716
青山　俊介	株式会社エックス都市研究所	704
横田　勇	静岡県立大学	664
中村　一夫	京都市	661
藤本　忠生	株式会社クボタ	659
福山　二	大阪市	644
寺田かつ子	東京都地域消費者団体連絡会	622
和田　安彦	関西大学	618
伊藤　秀章	名古屋大学	603
塚田　高明	鹿島建設株式会社	517
平田登基男	鹿児島工業高等専門学校	511

２．監　事（定数２名）　【無投票・氏名五十音順】

氏名	所属
奥村　忠彦	清水建設株式会社
藤原　正弘	財団法人水道技術研究センター

※廃棄物学会役員の選任に関する規程第４条により、無投票になりました。

会員研究推進支援事業の変更について

これまで行ってきた会員研究支援事業（指定研究や自主研究）の内容が変わりますので、お知らせします。

指定研究募集は学会創設の2年目（平成3年度）から開始された。指定研究には、総合的研究（最大50万円）と創造的研究（最大25万円）があった。さらに、平成8年度から、総合的研究（複数の研究者が協力して実施する廃棄物問題の総合的研究、最大200万円／2年間）と奨励研究（個々の研究者が独創性や意外性等の新しい着想で取り組む創造的研究、最大100万円）に拡充された。この前後で指定研究の予算額は50万円から200〜300万円に増加した。平成12年度までの10年間で56件以上（応募数不明の年度があるため）の応募があり、その内21件が採択され、助成総額は1,426万円であった。会費収入を5,000万円×10年で概算すれば、会員研究助成費は約3%となる。

自主研究は、学会が主体的に実施する研究であり、廃棄物に係わる重要問題について学会が提案する解決策を開発することを目的に、学会長の意向を聞き研究テーマ、研究グループを設定している。平成6年度から開始し、5件10年間で、計1000万円弱を支出している。

平成11年7月に総務委員会から指定研究のあり方について検討するようにとの問題提起があった。また、本助成に対する応募数が減少していた。研究委員会は平成12年3月に検討結果をまとめた。

会員の研究を推進すること、特に若手研究者や研究費を得難い会員に金銭的な支援をすることは依然として必要であると結論した。同時に、①研究募集を広く周知する、②応募申請を易しくする、③市民や自治体職員が利用できるように工夫する、④賛助会員にいる研究者への対応を考える、⑤若手研究者とは何かを明確にする、⑥研究成果の帰属問題を明確にする、⑦研究成果の公表を行う等の必要性を確認した。

平成13年度には、学会の財政問題とも絡み、予算減額を含めた一層の検討が要請された。そこで、これまでの検討を踏まえ、自主研究も併せて、会員研究推進支援事業の進め方について、次のような提案を行い、理事会で承認された。平成14年度の予算承認と共に具体化する予定である。

1）先導型研究（自主研究に替えて）

○目的と内容

学会主導で研究を行い、その成果を早急に得て社会に発信する必要のある研究テーマを設定する。テーマについては研究委員会から提案し、理事会の検討を経た後、研究者あるいは研究グループを公募して、補助金を支給して研究を実施する。

○予算

2年間で最大100万円

○義務

決算等の報告以外に、研究発表会での成果発表と、成果要約の学会誌への掲載。

なお、研究が開始できない見込みとなったときの予算は、奨励型研究助成に回す。

2）奨励型研究

（指定研究を若手・市民などの研究助成に集約する）

○目的と内容

研究費に恵まれない市民、市町村職員や大学・研究所の若手研究者を対象として、廃棄物学研究の前進に有効な研究を公募して行う。なお、海外での研究発表費用が中心の助成も含む。

○予算

1年間で最大50万円、2件程度を目途とする。

○義務

決算等の報告以外に、助成申請の内容に応じて、研究発表会での発表や、成果要約の学会誌への掲載。

3）研究委員会の役割

①学会外の研究費助成について調査し、会員に知らせ、また申請について援助する。

②本支援事業の申請の簡易化、会員への申請作業援助、支援募集の周知を進める。

平成14年度の総会でこれらが承認された後に、学会ニュースで研究募集についてお知らせしますので、ぜひ御応募下さい。

（田中信壽　記）

【お知らせ】

経済部会の名称変更と会員再募集　～「社会・経済部会」に変わります～

本研究部会では、平成14年度から新たな名称と体制のもとで研究活動を行いたいと考えています。それにともないまして、本活動に参加する部会員を募集します。循環型社会・経済の形成に向けて、社会的経済的側面から研究をされておられる会員の皆様、是非ご参加ください。

なお、学会員が全国に分散していることに鑑み、本研究部会では、E-Mail、および、Web での議論を基本とする予定です。また研究テーマは、グリーンコンシューマーの促進等を考えていますが、集まった会員の関心に応じて検討していく予定です。こんなテーマで他の会員と議論してみたいと思われる方、是非テーマにつきましても提案してください。なお、過去に登録されていた方も再登録をお願いします。

同志社大学経済学部　郡嶌孝

1）資格
　正会員・学生会員・賛助会員所属・公益会員所属のいずれか

2）申し込み方法
①氏名、②E-Mail アドレス、③勤務先・所属等、④会員の種別（正・学生・賛助・公益）、⑤関心のあるテーマ、をご記入の上、下記まで E-Mail にてお申し込みください。

3）申し込み先
京都府立大学 人間環境学部　山川肇
E-Mail：yamakawa@kpu.ac.jp

4）募集締め切り
平成14年5月末

＝事務局からのお願い＝

◎平成14年度会費納入と会員台帳変更届けの提出について

平成14年度会費の納入は、5月31日までにお願い申し上げます。

また、本年は会員名簿第７号の発行を予定しております。個人会員の方は、払込取扱票通信欄に会員名簿への個人情報掲載の意向を記入してご送金下さい。

登録事項に変更のある会員の方は、本ニュースに同封いたしました会員台帳記載事項変更届を平成14年6月28日(金)までに、学会事務局へご提出下さい。（登録の変更は、期限後も随時受け付けておりますので、変更の都度ご連絡下さい。）なお、公益及び賛助会員ご担当者には、別途照会させていただきます。

会員の皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

会員状況	H14.3.31 現在 （　）内は、H13.4.1 以降の増減
正会員	3,467（64）
学生会員	239（ 4）
外国人会員（DM）	19（ 0）
公益会員	112（ 1）
賛助会員	210（ 9）
計	4,047（78）

注）外国人会員(DM)は、廃棄物学会外国人等会員規程第４条に定める会員を示す。

廃棄物学会ニュース No.68　　平成14年5月1日発行
廃棄物学会　〒108-0014 東京都港区芝5-1-9 豊前屋ビル5F
Tel.03-3769-5099　Fax.03-3769-1492
http://www.jswme.gr.jp
古紙配合率100%再生紙を使用しています

○(社)環境科学会主催、廃棄物学会中国四国連絡会後援

第15回環境科学セミナー

テーマ：ＰＲＴＲに関する点源と非点源
開催日時：平成14年6月8日（土）午後1時～5時
開催場所：岡山大学津島キャンパス
参加費：会員1,000円、非会員2,000円、学生無料
問合せ先：岡山大学環境理工学部　小野芳朗
E-Mail：ono@cc.okayama-u.ac.jp
申込み先：環境科学会事務局
電話・FAX：0298-58-6120

― 事務局人事異動 ―

退職　佐藤 典子　平成14年3月31日付け
採用　伊藤 香織　平成14年4月 1日付け

☆☆事務局だより☆☆

目に青葉･･･。一年で本当に一番すがすがしい最良の季節の到来です。廃棄物学会も13年目を迎え、来る5月23日の平成14年度総会で第7代目の会長が選出され、次の飛躍へとスタートを切ります。総会にはぜひ多数の会員の方々の出席をお願い致します。廃棄物の処理については、昨今ではハードからシステム重視へと変わりつつあり、21世紀の社会が目標とする望ましい循環型社会の実現に向け、学会内でも多岐、多様なる議論がなされ、学会活動を通じてその大いなる成果を期待したいものです。★先号の学会ニュースでお知らせしましたように、新年度より学会ホームページ(ＨＰ)が新アドレス(左記参照)でリニューアル運用されています。今後は学会情報の発信の場としてＨＰが大いに活用されていくことになります。やがて将来は研究発表会、学会誌、学会ニュース、役員選挙等々もＨＰの閲覧や電子メールにて行なわれペーパーレスの時代になるのでしょうか。廃棄物の発生抑制になるとは思いますが、何かしら寂しい気がするのは古き時代の考えとなるのでしょうか。　（A. N. 記）